



論説委員室から

## ぎんさんが残したもの

名古屋市の河村たかし市長は、「名古屋ことば」の復権を唱えている。東京中心主義に抗する正論ながら、どぎつい言葉づかいが少々気恥ずかしい。でも長寿のあの双子姉妹の名古屋弁は、聴くたびに何だか懐かしくなったものだ。

きんさん、ぎんさんのことだ。100歳を前に名古屋市の長寿名簿に載り、知られるようになった。「そうだなも」と愛敬のある顔で話し、イベントやテレビで引っぱりだこに。約10年前、107、108歳で相次ぎなくなった。

当時、遺族が同意し、ぎんさんの遺体は解剖された。執刀したのは、名古屋の南生協病院の棚橋千里さん(41)。きれいな血管に驚いたという。硬くなった動脈は、はさみで切るにも力が要りバリバリ

音がするそうだが、ぎんさんののは脂肪や血の塊がなく、フェルトの布を切るようにスーッと切れた。脳内血管も同様で血流がよく、認知症を遅らせていたらしい。胃は粘膜が分厚く、しっかりと飯を食べ、消化していた様子が分かった。

棚橋さんは遺族にも取材し、「お茶を好み、魚中心の食生活がよかった」などと長寿の秘訣を講演している。「みなさんご存じの健康法ですが、ぎんさんの写真をみせて話すと、納得されますね」。主治医の室生昇名誉院長とともに「きんさんぎんさんが丈夫で長生きできたワケ」(あけび書房)を昨年、著した。

病理解剖は医学研究のためだが、健康つくりにも貢献する。きんさん、死んだ後までご苦労だなも。

〈伊藤智章〉